

令和元(2019)年度 学校評価報告書

令和2(2020)年3月20日

学校法人 聖母学園

新発田聖母こども園

園長 遠見 正子

- 1 本園の建学の精神(別紙 1 参照)
「愛」(キリスト教の「愛」)
- 2 本園の教育目標(別紙 1 参照)
- 3 令和元(2019)年度事業計画書(別紙 2 参照)
- 4 本年度の重点的に取り組む目標と計画
 - ① 思いやりと心と体を育てる保育
 - ② 家庭との連携をはかる
- 5 2019 年度事業(運営指導)計画書についての報告【別紙 3 参照】
- 6 本年度の重点的に目標の取り組む計画に対する評価

	評価項目	評価	取り組みと結果
1	思いやりと心と体を育てる保育	A	教職員が週末の話し合いをもち、各クラスでの成長の様子を共有した。個別な課題や注意すべきことがよく確認できた。目標についてはおおむね達成できた。
2	家庭との連携をはかる	A	こども園になって3年目。朝とお帰りに、保護者と子どもの様子については、よく話し合いができています。連絡ノートなどの活用もあって、園児の園と家庭との様子がよく確認できていた。急な子どもの発熱などがあった時には、勤務先に電話をしてお迎えをお願いしているが、急な対応がむずかしいところもある。

7 本年度とくに取り組んだこと

- ・ 保護者へのアンケートの実施した(2020年1月)
- ・ 教職員による自己点検・自己評価(年3回)の実施によって、各自の保育の改善点と課題を見つけることができた。

・ヒヤリハット報告書の活用

- ・ 避難訓練の実施(年間計画表に基づく)

- ・ 苦情処理:本年度は0件

・学校関係者評価委員会の開催

*7月9日第1回委員会開催(小学校長、信徒会長、卒園生代表保護者、近隣住民代表、園長など8名の構成)によって、保育の見学、給食の試食、懇談会などを行い、当園の保育の取り組みへの理解と提言をいただいた。

*2月12日第2回委員会開催(第1回同様の内容)

8 今後の取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	快適な環境整備	① 夏の暑さ対策を急いでやりたい。来年度の予算に計上し、玄関ホールに冷暖房用のエアコンを設置する。効果があるように風除室を玄関入り口に建設する。 ② ヒヤリハットを減少するため、クラスの安全点検を進める。
2	ゆとりのある保育者の配置	今年度は学期途中で、園児数の増加によって保育者の補充を行った。産休・育休の保育者が増えたために、教職員の補充がたいへんな年だった。また保育者の子どもの学校からの呼び出し、インフルエンザなどで学校を休まなければならない時に教職員が欠勤する場合に、人的な余裕がなかった。来年度は、教職員数を余裕のある組織体制にしたい。
3	安全の見直し	遊び道具の点検、遊び場の安全を見直す。園児には、正しい遊び方の指導をする。園児の動線を考え、保育者の目と安全確認に力を入れる。

【参考資料】

新発田聖母こども園の沿革

和暦	西暦	月日	事 項	備 考
昭和 29 年	1954 年	3 月 1 日	宗教法人カトリック新潟教区・新発田聖母幼稚園 設置の認可(初代園長クリスチャン・ガスペルス神父)	新潟県指令自第 343 号
昭和 29 年	1954 年	4 月 1 日	新発田幼稚園の開始日	
昭和 55 年	1980 年	9 月 1 日	新園舎の完工	
昭和 57 年	1982 年	3 月 31 日	学校法人聖母学園への設置者変更認可 学校法人聖母学園 新発田聖母幼稚園となる	新潟県内 17 園とともに 学校法人化となる 新潟県指令文自第 198 号 認可定員 120 名
平成 25 年	2013 年	4 月 1 日	学則変更により認可定員を 120 名から 100 名とする	
平成 27 年	2015 年	4 月 1 日	施設型給付の幼稚園となる	子ども・子育て支援新 制度スタートする 利用定員 60 名
平成 28 年	2016 年	7 月 15 日 3 月 30 日	認定こども園施設整備交付金を利用し、 増築・大規模修繕工事を行う	国・県・新発田市からの 補助金
平成 29 年	2017 年	3 月 28 日	「認定こども園 新発田聖母こども園」 として認可される	新潟県少対第 804 号
平成 29 年	2017 年	3 月 31 日	学校法人聖母学園新発田聖母幼稚園を 廃園届け(63 年間)	認定こども園(幼保連携 型)に移行のため
平成 29 年	2017 年	4 月 1 日	学校法人聖母学園 認定こども園 新発 田聖母こども園 幼保連携型)としてスタートする(利用定 員 90 名)	子ども・子育て支援新 制度による 認可定員 105 名とする
平成 29 年	2017 年	9 月 23 日	認可定員を 117 名に学則変更し届け出 る(保育室面積から割り出した人数に合 わせる)	新発田市の要請により0 歳児 3 名から 6 名に変 更し、保育室面積を広 げる(利用定員 90 名)

【別紙 1】

学校法人聖母学園
認定こども園
新奈田聖母こども園

建学の精神 『愛』

【出典】ヨハネ 13:34 「あなたがたに新しい掟を与える。
互いに愛し合いなさい。わたしがあなただがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ほか

◇教育目標

1. 健康で明るく、たくましい子ども

- ・笑顔の絶えない元気な子
- ・失敗しても挫けない、意欲的な子

2. よく見、よく考え、創造的な子ども

- ・よく話を聞き、行動にうつせる子
- ・自分の気持ちを言葉で表現できる子
- ・想像から創造力を発揮する子

3. 神さまと友だちを愛し、思いやりのある子ども

- ・感謝の気持ち「ありがとう」の言える子
- ・まわりの人のために喜んで行動のできる子

乳児部 (0・1・2 歳児)

- * 保育者と親しみ愛着関係を築き、愛情を感じながら育つ
- * 心地よさの中で、基本的な生活習慣を身につける(遊ぶ・食べる・排泄・寝る)

幼児部 (3・4・5 歳児)

- * 基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でやり遂げる力をつける
- * 自分の気持ちを言葉でつたえる
- * 様々な経験や活動を通して行動力、思考力、表現力を身につける

【別紙 2】

2019 年度 事業計画書（運営指導）

- *「乳児部」と「幼児部」の協力体制を築くように努めていく。
幼児部は従来の幼稚園教育の良さを継続する。
乳児部は昨年実施した保育を振り返り、体制を整える。

乳児部

1. 主幹教諭を中心とした保育者体制を整え、園内事故にはすばやく対処できるようにする。
「事故報告書」を必ずとり、全職員で話し合いをもち、今後につなげるようにする。
2. 0 歳児保育は、とくに事故防止に気をつける。朝登園時にしっかりと観察をし、異変があるときは、親への連絡をすばやく取ることを徹底する。
3. 「ヒヤリハットの記録」を必ずとり、全保育者に伝えることを徹底する。
4. 幼児部との意思疎通がうまくいく工夫を考える一会議のもちかた、ミーティングなど。

幼児部

1. 従来の幼稚園で培ってきたカリキュラムを充実させる。
2. 縦割り保育(ノアの日)の実施。
3. 屋上を利用した夏の水遊びを実施する。
4. クッキングの継続
5. 乳児部との協力体制を考える。

愛児会との協力関係

1. 従来から行っていた行事の見直し。
2. 見直しに伴う愛児会委員と保護者の準備等における仕事量の軽減を考える。

【別紙3】

2019 年度事業(運営指導)計画書についての報告

* 指導計画と結果

	計 画	結 果
乳 児 部	主幹教諭を中心とした保育者体制を整え、事故対応にすばやく対処する。	小さな事故はあったが、大きな事故は防げた
	0歳児の朝の視診、保護者へのきめ細かな連絡をする	概ねできた
	「ヒヤリハットの記録」をきちんととり、全保育者に伝達する	その都度、連絡を徹底した
	幼児部との意思疎通をできるように、会議の持ち方の工夫。	「週末会議」やお昼時間に代表者が会議をもった

	計 画	結 果
幼 児 部	カリキュラムの充実	週案、月案に沿って概ねできた
	縦割りの保育(ノアの日)の実施	異年齢の交流が、毎月行われた
	屋上を活用した夏の水遊び	給水ポンプを導入し、水圧も十分となり、楽しくプールと水遊びができた
	クッキングの継続	毎月楽しくできた
	乳児部との協力体制	「週末会議」が行われた

	計 画	結 果
愛 児 会	従来からの行事の見直し	年3回に絞った
	役員の仕事量の軽減を考える(働いているお母様対策)	会議時間を設定し、集まる回数を削減した

* 本年度の重点的な取り組み目標と計画

	目 標	取り組み状況
1	思いやりとところとからだを育てる保育	教職員の「週末会議」を開催し、乳幼児の成長の中で、達成できているかを確認し合った。一人ひとりの問題と課題を教職員が把握でき、概ね達成できている。
2	家庭との連携を図る	こども園になって、保護者とは朝と降園時に子どもの様子を中心に話す機会は多くなった。連絡ノートを活用している。急な子どもたちの発熱などによって勤務先にお迎えを頼んでも困難なところが悩みである。

* 当園における施設拡充に関わる工事類について

- ①2階の園児用トイレの床張り替え(乾式床)工事を行った。
- ②園庭の砂場シートの交換と増設をした。
- ③ 屋上への給水(水圧を上げるため)のためのポンプの設置工事をした。

以 上